

国土交通省

道企第460号

19.5.31

国土交通省道路局長 様

意見書

道路は、地域住民の生活や経済活動に欠くことのできない最も基本的な社会資本であり、各種の交通機能から空間機能に至るまで、極めて多面的な機能を有しており、その整備に住民の強い期待が寄せられています。

本町においては、厳しい財政状況の中ではあるが、現在進行中の木戸ダム建設工事に合わせ、国道と県道を結ぶ幹線道路等の整備促進に力を注いでおり、地域間連携強化の一体化そして、キャッチフレーズ「未来へのキックオフ！光と風の町・ならは」の創造をめざして、各般の施策や事業を推進しているところであります。

なかでも、平成18年にオープンした道の駅ならは、そして、天神岬スポーツ公園・サイクリングターミナルは本町観光行政の拠点でもあり、世界有数のサッカートレーニング施設、「Jヴィレッジ」とあわせ年間集客数も増加の一途をたどっております。

また、双葉地域は全国有数の電源基地であり、楢葉町も例に漏れず、東京電力福島第二原子力発電所2基が設置されており、朝夕の国道は走行車線不足のため、通勤利用者による慢性的な渋滞が発生していることに加え、有事（原子力災害時等）の際における地域住民の避難経路の誘導・確保が、楢葉町独自では困難な現状に思慮を巡らせると、国道6号の4車線化・常磐自動車道の延伸、更には、ならはスマートIC開設の早期実現が国の施策として緊急且つ急務であり、中央との意識に違いがあることを十分に認識し、地域の活性化や福祉の向上を図るうえでも不可欠な課題として積極的に対応していく必要があると考えます。

よって、地方における道路整備の重要性について十分ご理解いただき、計画的かつ重点的に推進していただくよう意見書を提出します。

平成19年4月24日

福島県双葉郡楢葉町長 草野 孝

